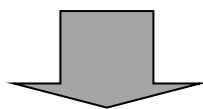
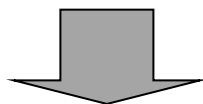


令和元年度 文京区立本郷小学校 授業改善推進プラン（図画工作科）

	低学年	中学年	高学年
身に付けさせたい力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽しみながら、進んで表現したり見たりする態度やつくりだす力</li> <li>○造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせる力</li> <li>○身の回りの作品などから、面白さや楽しさを感じ取る力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽しみながら、進んで表現したり鑑賞したりする態度やつくりだす力</li> <li>○材料などから豊かな発想をし、手や全体を十分に働かせ、表し方を工夫する力</li> <li>○身近にある作品などから、よさや面白さを感じとる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽しみながら、創造的に表現したり鑑賞したりする態度やつくりだす力</li> <li>○材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて発想をし、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫する力</li> <li>○親しみのある作品などから、よさや美しさを感じる力、それらを大切にしようとする態度</li> </ul>



	低学年	中学年	高学年
児童の実態	1年 <ul style="list-style-type: none"> <li>○図工に対して楽しく取り組める児童が多い。</li> <li>○技能的な個人差や得手不得手はあるが、自分なりに、前向きに取り組むことができる。</li> <li>○自分なりの造形活動を楽しむことができる。</li> </ul>	3年 <ul style="list-style-type: none"> <li>○楽しく取り組める児童が多い。</li> <li>○一斉指導では、めあてや活動内容を把握しにくい場合がある。</li> <li>○友達と楽しんだり作る喜びを感じたりしている姿が多く見られる。</li> <li>○自信のない言葉を自分から言ったりする姿が見られる。</li> </ul>	5年 <ul style="list-style-type: none"> <li>○なんにでも取り組んでみようとする意欲がある。</li> <li>○友達との仲が深まり、良い面がある一方、馴れ合ってしまう面もある。</li> <li>○片づけを進んで行わない児童が居る。</li> <li>○忘れ物が多い特定の児童がいる。</li> </ul>
	2年 <ul style="list-style-type: none"> <li>○図工に対して楽しく取り組める児童が多い。友達を褒める姿も見られる。</li> <li>○技能的な個人差や得手不得手はあるが、自分なりに取り組んでみようとする前向きな姿勢が感じられる。</li> <li>○数名の児童は離席や私語、手遊びが継続してみられる。</li> <li>○経験の個人差が見られる。</li> </ul>	4年 <ul style="list-style-type: none"> <li>○落ち着いて学習に取り組んでいる。</li> <li>○既習事項をよく生かそうとしたり、新しいことにも進んで取り組もうとしたりしている。</li> </ul>	6年 <ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲をもって課題に取り組める児童が多い。</li> <li>○技能面に個人差がある。</li> <li>○材料の形、色、質感の特性を生かし、見通しをもって表現活動に生かすことができる。</li> </ul>



	低学年	中学年	高学年
1年	<p>○紙や身近にある素材を中心に、のり・ハサミなどの道具などの材料の基本的な扱い方について指導する。</p> <p>○生活体験とできるだけ直結した題材や活動を取り入れる。</p> <p>○基礎・基本をおさえながら造形活動を楽しみ、作ったもので遊ぶ題材を設定する。</p> <p>○自他の作品の良さを共感的・受容的に鑑賞できる機会を設定する。</p> <p>○各自が道具を使いやすいように、場を工夫する。</p>	<p>○木材や身近にある素材を中心にそれを切ったり、つなげたりするためのノコギリ・金槌などの道具の基本的な扱い方について指導する。</p> <p>○題材に合わせた学習形態と場を設定する。</p> <p>○自他の作品の良さを共感的・受容的に鑑賞できる機会を設定する。</p> <p>○個人指導をきめ細かにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つますきへのアドバイス</li> <li>・明確な学習のめやすの提示</li> <li>・学習のきまりの徹底</li> </ul> <p>○道具の扱いは、安全に使用するよう厳しく指導する。</p>	<p>○これまで扱ってきた素材に加えて木材やはりがねなどの素材を中心に、それを切ったり、つなげたりするための用具の基本的な扱い方について指導する。</p> <p>○道具の扱いは、安全に使用するよう厳しく指導する。</p> <p>○客観的に自己を見つめ、友達との性格の違いなどもある程度理解できるようになることを踏まえた題材を設定する。</p> <p>○自他の作品の良さを共感的・受容的に鑑賞できる機会を設定する。</p> <p>○よりきめ細かな個人指導を行う。</p>
2年	<p>○紙や身近にある素材を中心に、筆・ハサミなどの道具などの材料基本的な扱い方について指導する。</p> <p>○題材に合わせてグループ学習の形態も取り入れ、友達のアイデアに触れたり取り入れたりとすることができるようにする。</p> <p>○鑑賞の時間を確保し、友達の作品を見たり、自分の作品の工夫を友達に話したりして、今後の作品づくりにつなげていくことができるようにする。</p>	<p>○木材や身近にある素材を中心にそれを切ったり、つなげたりするためのノコギリ・金槌などの道具の基本的な扱い方について指導する。</p> <p>○道具の扱いは、安全に使用するよう厳しく指導する。</p> <p>○この時期の表現と鑑賞は表裏一体であるので、自分や友達がつくった作品を自然な形で振り返り、その良さを共感的に話し合わせるようにする。また、国立近代美術館工芸館に鑑賞する機会を設定する。</p> <p>○個人指導をきめ細かにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つますきへのアドバイス</li> <li>・明確な学習のめやすの提示</li> <li>・学習のきまりの徹底</li> </ul>	<p>○個々の表現に合った素材選びや技法を自ら考え、制作活動ができる。</p> <p>○道具の扱いは、安全に使用するよう厳しく指導する。</p> <p>○これまでに蓄積した表現方法、技法、材料などを総合的に働かせた新しい発想や新たな試みに取り組ませる。</p> <p>○自他の作品の良さを共感的・受容的に鑑賞できる姿勢・態度の育成と美術館鑑賞の芸術作品に触れる機会をつくる。</p> <p>○生涯学習の視点から優れた美術作品に興味・関心をもつように題材と関連づけながら作品を紹介していく。</p>

令和元年度 文京区立本郷小学校 授業改善推進プラン（図工科）

		低学年	中学年	高学年
成果（○） 課題（●）	1年	○担任・講師からの支援、家庭からの材料集めの協力もあり、基礎・基本を押さえながら楽しく造形活動ができた。 ○身近にある素材を生かして造形活動を楽しむことができた。 ○自分で表現した作品を基に、友達と感想を伝え合ったり、作ったもので遊んだりして、作品に親しむことができた。 ●作品の進み具合に個人差があるので、個別指導を丁寧に行う。また、児童一人一人が活動のねらいや見通しをもって取り組めるように、参考作品や手順を明確に示すようにする。	○身近な素材を生かし、素材の特徴を味わいながら造形活動を楽しんでいた。 ○題材に応じて道具を配置することができた。 ○表現活動の際、自分や友達の作品の違いやよさを認め合ったり、味わったりしながら取り組み、その後の鑑賞活動でも共感的・受容的な態度が養われた。 ●作品の進み具合の個人差が大きく開いた題材があった。個別に言葉かけをし、意欲をもって主体的に取り組めるように工夫していく。	○既習事項を生かして表現する題材を設定することで、今までの技能の振り返りと、新たな発想による表現の成長が感じられる活動があった。 ○場の設定によって、誰もが使いやすいように素材や道具を配置することができた。 ○発達段階に応じ、自己を表現するような題材に取り組みすることで、互いのよさや違いを再認識できる場面ができた。 ●作品の鑑賞活動の際、題名や感想を考えることにつまずきを感じている児童がみられた。提示するめあてや活動の中で指導し、自分なりに考えを深める態度を育みたい。 ●時間がかかる制作では、進度差が大きくなることもあった。個に応じて細やかな支援に努める。
	2年	○紙などの身近な素材を中心に、のり・ハサミなどの道具を安全に活用させることができた。 ○グループで作品づくりや鑑賞をしたり、準備・片づけに取り組んだりすることで、互いのよさや違いに気付きながら楽しく活動できた。 ○ペアやグループで作品鑑賞をし、感じたことを伝え合う活動を通して、よさや面白さを感じ取ったり、次の自分の作品に生かしたりした。 ●技能習得の程度に個人差があり、技能を十分に習得する前に表現活動に入る児童が見受けられた。素材を試したり味わったりする時間を一層充実させ、児童が自信をもって表現活動に取り組めるよう支援する。	○身近な素材の特徴を生かしながら表現活動に取り組み、木材をのこぎりで切る際も、きまりを守って安全に活動できた。 ○道具の準備・片づけを含めて安全に取り組むことができた。 ○自分や友達の作品を鑑賞し合ったり見合ったりして、互いのよさや違いを認め合う姿勢が育まれてきた。そのよさを自分の作品に生かす姿が多々みられた。 ●時間がかかる制作では、進度差が大きな問題となる。個々に応じて細やかなチェックと支援に努める。	○既習事項を総合的に働かせるような題材を設定することで、個の表現が深められる機会ができた。 ○道具の取り扱いについて丁寧に指導したことで、大きなけがなく活動ができた。 ○発達段階に応じた題材の提示を工夫することで、児童個人が内省する機会をつくることができ、新しい発想のひらめきや思考の深まりがみられた。 ○国立近代美術館の鑑賞は、実物にふれることで、美術について興味関心が深められた。 ●表現したいことに応じた技能が活用できるように、導入や掲示物、相互鑑賞の場面での声掛けを充実させる。